

平成23年度  
障害者雇用  
職場改善好事例

優秀賞

## 新潟ワコール縫製株式会社 (新潟県新潟市)

発達障害の従業員に、時間軸を持った(永続的な)作業にチャレンジさせることで、雇用継続を実現

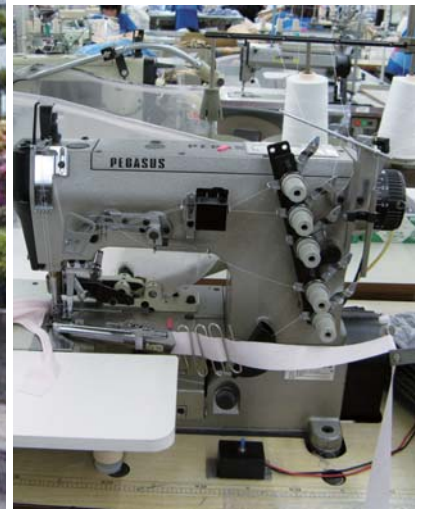
キーワード

1 職務遂行

2 職域拡大

3 行動面の課題の改善

4 支援機関との連携



### 事業所の概要

大手アパレルメーカーの株式会社ワコールの子会社として、昭和49年4月に創業。ワコールグループにあって、スリープ・スポーツ領域のマザー工場(技術センター)の役割を担っている。

従業員数 227名

### 業種及び主な事業内容

パジャマ、ブラジャー、スポーツタイツ等の製造、本社からの委託による仕様書の作成、サンプルの点検、協力工場の製品の抽出検査等を実施。

### 発達障害者雇用の経緯

毎年、新卒者採用の実績のある、高等学校の進路担当者及びハローワークの要請により、面接を実施。発達障害のある者はコミュニケーションは苦手であるが、縫製に対する興味や意欲が感じられたため、採用。その後も支援機関を経由して1名採用。

### 発達障害者雇用数

従事作業

発達障害者 **2名**

下着のタグ付け、各階への製品集荷、下着の部品付け(丸カン通し)、タグカット、縫製軽作業、ミシン作業(タグの仮止め)等

## 取り組みの概要

キーワード	改善前の状況	改善内容	改善策	改善後の効果
<b>1 職務遂行</b>	Aさんは業務中一定の時間になると集中力が途切れ、作業量や作業態度にムラが生じる。	先輩障害者の配置、複数業務の担当、目に見える形の目標設定を実施。	<b>1</b>	先輩障害者、Aさんともに意欲、集中力が増し、作業量、作業態度の両面が改善される。
<b>2 職域拡大</b> <b>3 行動面の課題の改善</b>	職域が拡大し複数の部署で業務を行うことで、Aさんの危険な行動や、人の気をひくような行動が発生。	社長直筆の「10か条」の作成により、Aさんに対し職場のルールやマナーを伝える。	<b>2</b>	危険な行動が減少し、業務に取り組む姿勢や行動が安定する。
<b>4 支援機関との連携</b>	Aさんは普通高校の出身のため、採用前の情報が乏しく、作業面・行動面の課題が発生した時の対応方法が分からなかった。	定期的に訪問してくれていた社団法人新潟県雇用開発協会(以下「新潟県雇用開発協会」という。)への相談を通じて、発達障害者支援センター、障害者就業・生活支援センター担当者との相談も実施。	<b>3</b>	支援機関と検討しながら対応方法を見出す。Aさん自身も、相談等の機会を通じて事業所以外の外部の支援者とのコミュニケーションに慣れる。
<b>2 職域の拡大</b>	同期の従業員がミシン作業を行っているため、Aさんもミシン作業を希望するが、危険性もあり当初はミシン作業以外の補助的な作業のみ担当してもらう。	1ヶ月ごとの作業面や行動面の課題の達成状況を踏まえて、ミシン作業への移行を検討。	<b>4</b>	目標ができ、目標を達成したことで、治具等を活用しながらミシン作業を実施することとなる。

## インタビュー

### 企業の声



●代表取締役社長 **坂森 猛** さん

法令遵守の観点から障害者を雇用するという考え方がありますが、私はそれは少し違うと考えています。障害は、人間の側面的一部分であって、それがどのように出るかの違いだと思っています。地域にはそのような方が必ずいらっしゃるの、一緒に働いて頂くことで地域に貢献したいと考えています。また、会社としても彼らが働くことによって利益につながっていけば、win winになります。地域には必ずいらっしゃる障害者を排除することは考えられません。その結果が、法令を守ることに繋がると 생각합니다。



●特命担当顧問 **青木 孝一** さん

障害がある社員も、治具や道具を活用することで職域の拡大につながります。企業は、事業を継続していくことが必要ですが、障害のある社員に対して単に頑張れとか気合いを入れるということではなく、存在感を持てるような仕組みを何気なく作る、組み込むことが大事だと思います。発達障害のある社員もミシン作業の際に治具を使用することで、4~5力所に気をつけながら行っていた作業を、1力所気をつけるだけで対応出来るよう工夫しています。

### 企業の声



●総務課長 **西村 千治** さん

障害のある社員の方達が、今日は会社に行きたくないと思わないように、また現場の班長さんを支えられるようサポートしていきたいと思っています。



●生産課 検品包装班 班長 **石川 菜穂子** さん

障害のある人達と関わる事で学ぶべき事が多くあります。接し方によっては良くもなり、悪くもなります。課題の多い中、回りの方々の協力が有り、彼らが日々成長し、今では必要な存在になっています。彼らの可能性をより引き出せればと思っています。

### 従業員の声

● **A** さん

この会社で仕事が一杯できるようになりたいと思っています。今行っている作業は正しく行わないと回りの人に迷惑がかかるので丁寧な作業をしています。これからもっと難しい仕事にも挑戦したいと思っています。

● **B** さん

この会社は、皆様優しく、分かりやすく教えてくれるので作業が段々楽しくなってきました。分からないことがあったら、すぐに質問するようにしています。

# 改善策紹介

## 改善策 1

キーワード 1 職務遂行

集中力が途切れがちな、Aさんに対して、複数作業の実施、先輩障害者による指導、目標達成シートの活用等により、集中力と作業意欲を向上

普通高校卒業後、実習、トライアル雇用(P.80支援制度参照)を経て採用したAさんは、午後の一定の時間になると、独り言が増える等集中力が途切れがちになった。そのため、以下のような取り組みを実施。

- 独り言が増える時間帯には、集荷作業を担当させる。
- 先輩障害者の助言は素直に受け入れるため、先輩障害者による指導を実施する。
- 目標達成シートの活用により作業量に対する意識を高める。

これらの取り組みの結果、先輩障害者の責任感や意欲が向上すると共に、Aさんも集中力が途切れず、独り言も無くなる等作業への取り組み状況が改善した。

氏名				目標達成シート					
年月日	作業内容	目標枚数	実績	達成	年月日	作業内容	目標枚数	実績	達成
7月1日	間違いはなかったか				7月19日	間違いはなかったか			
7月2日	間違いはなかったか				7月20日	間違いはなかったか			
7月4日	間違いはなかったか				7月21日	間違いはなかったか			
7月5日	間違いはなかったか				7月22日	間違いはなかったか			
7月6日	間違いはなかったか				7月23日	間違いはなかったか			
7月7日	間違いはなかったか				7月26日	間違いはなかったか			
7月8日	間違いはなかったか				7月27日	間違いはなかったか			
7月9日	間違いはなかったか				7月28日	間違いはなかったか			
7月12日	間違いはなかったか				7月29日	間違いはなかったか			
7月13日	間違いはなかったか				7月30日	間違いはなかったか			
7月14日	間違いはなかったか								
7月15日	間違いはなかったか								

\*目標枚数達成したらシールを貼って下さい。  
\*一ヶ月間に全部シールが貼れたらミシンの仕事をお願いします。  
目標に向かって頑張りましょう!!

社長	援助者	生産部長	所属長
			総務



目標達成シート▶

## 改善策 2

キーワード 2 職域拡大 3 行動面の課題の改善

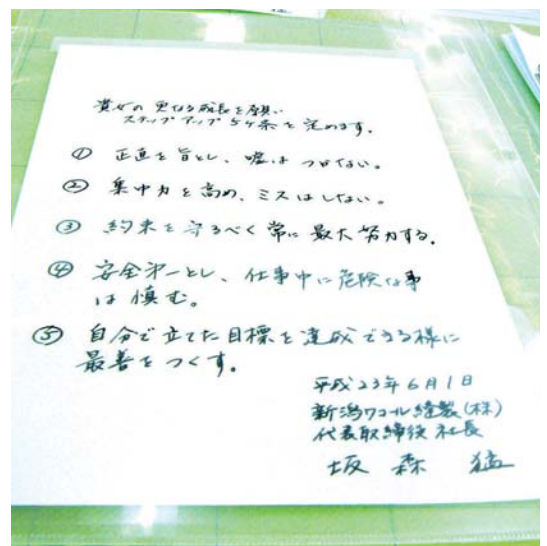
Aさんの職域の拡大に応じて浮上した課題への対応

Aさんの職域を拡大したことを通じて、職場内での移動の際に、ミシンのボタンを押す、エレベーターの中でジャンプする等新たな課題が発生。Aさんがミシン作業を希望していたこともあり、「目標達成シート」を活用しミスなく1ヶ月間作業を行えたら、次のステップとしてミシン作業を取り入れることを約束すると共に、社長直筆の10か条(平成23年10月現在はステップアップ5か条になっている)を作成し、「手は常に清潔にする」「エレベーターの中でジャンプしない」等本人に守ってほしい項目を示す。希望していたミシン作業を行えるようになるという目標ができた



作業中のAさん▶

ことに加え、口頭ではなく書面でルールやマナーについて伝えたこともあり、課題であった「ミシンのボタンを押す」、「エレベーター内でジャンプする」等の行動は見られなくなった。



▲社長直筆の「ステップアップ5か条」

### 改善策 3

#### キーワード 4 支援機関との連携

## Aさんの課題に対して支援機関の助言を得ながら、障害に応じた対応方法の助言を得ると共に、新たな支援機関の活用につながる

Aさんは、普通高校出身ということもあり、採用に際して、支援機関からの情報提供や、支援が受けにくい状況であった。そのため、以前から定期的に事業所を訪問していた、新潟県雇用開発協会に対応方法を相談。また、同協会を通じ、必要に応じて他の専門機関(発達障害者支援センター、障害者就業・生活支援センター)から助言を受けるようになった。また、同協会の定期的な訪問の際には、Aさんとも相談を行うことにより、Aさんは事業所の上司や同僚だけでなく、外部の方とのコミュニケーションを学び、コミュニケーション能力が向上した。



※社団法人新潟県雇用開発協会への委託により実施されていた障害者雇用支援業務は、平成23年度からは、高齢・障害・求職者雇用支援機構が直接実施することとなり、現在は、新潟高齢・障害雇用支援センター（新潟障害者職業センター雇用支援課）が実施している。（なお平成23年度は、定期的な事業所訪問は実施していない。）

### 改善策 4

#### キーワード 2 職域拡大

## Aさんの希望を取り入れ、新たな職域にチャレンジ

Aさんが、新たな作業にチャレンジしたいという希望があり事業所としても、Aさんに継続して勤めてもらうためには、補助的な業務だけでなく、ミシンを用いる業務の中でも技術が必要な業務を担ってもらいたいとの考えのもと、「第1種作業施設設置等助成金」(P.5用語解説参照)を活用し、ミシンを購入。Aさんが作業しやすいようAさん用のガイド(通常であれば複数箇所にご注意を向けながら行う作業を、注意を向ける箇所を減らし、ミスなく正確な作業ができるよう工夫)を作成し、作業を行っている。

#### ※ここがポイント

Aさんは、複数箇所と同時に注意を向けながら作業を正確に行うことが苦手でした。通常用いるガイドは、複数の箇所にご注意を向けながら作業を行う必要があるため、注意を向ける箇所が減るよう、Aさん用のガイドを作成しました。Aさん用のガイドの活用により、Aさんの負担感を軽減すると共に、正確な作業遂行につながっています。



▲ガイドを使用して作業するAさん